

平成21年 3 月31日現在

研究種目：基盤研究（B）  
 研究期間：2006年度 ～ 2008年  
 課題番号：18320085  
 研究課題名（和文） 第二次大戦期日本語教育振興会の活動に関する再評価  
 についての基礎的研究  
 研究課題名（英文） A Study on the Revaluation concerning Activities of  
 NIHONGOKYOUIKUSHINKOKAI during World War II  
 研究代表者  
 長谷川 恒雄 (HASEGAWA TSUNEO)  
 財団法人 言語文化研究所・研究一部・研究員  
 研究者番号：10051567

## 研究成果の概要：

日本語教育振興会は、第二次大戦期に日本語教育を統括していた、文部省の管轄下の組織である。従来は文部省が指導性を発揮し設置した組織と理解されてきたが、本研究により興亜院の強い要請により曲折を経て成立したことが判明し、日本語教育史の見直しを迫るところとなった。また、振興会設置の過程においては文部省内に国語課が新設され、国語課は今日の日本語教育行政の基となっている。一方振興会の方は、戦後になると資産を（財）言語文化研究所に継承させながら、日本語教育施策の中核からは外れ、日本語教育実施機関としての機能を果たしていく。この変容については、更なる研究の継続が必要である。

## 交付額

(金額単位：円)

|      | 直接経費       | 間接経費      | 合計         |
|------|------------|-----------|------------|
| 18年度 | 5,500,000  | 1,650,000 | 7,150,000  |
| 19年度 | 5,600,000  | 1,680,000 | 7,280,000  |
| 20年度 | 3,900,000  | 1,170,000 | 5,070,000  |
| 総計   | 15,000,000 | 4,500,000 | 19,500,000 |

## 研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・日本語教育

キーワード：日本語教育史、言語政策史、日本語教育振興会

## 1. 研究開始当初の背景

前科研「第2次大戦期 興亜院の日本語教育に関する調査研究」(平成14年度～16年度、課題番号：4380120)において、第二次大戦期の日本語教育施策は従来の常識とは異なり、文部省よりも興亜院に指導性があることを発見し、従来文部省の主導下で設置されたとされてきた日本語教育振興会についての調査研究を行い、その日本語教育史上および言語政策史上の位置づけの再評価が必要と考えた。

## 2. 研究の目的

第二次大戦期の日本語教育施策が従来から考えられてきたように、文部省の主導性が中核にあったのか、興亜院の指導性がどのように日本語教育施策に影響を及ぼしていたのか、を意識しながら日本語教育振興会の「活動のデータベース化」および「その位置づけの再評価」を行うことを目的とする。

## 3. 研究の方法

(1) 日本語教育振興会の「活動のデータベース化」として機関紙である『日本語』の

「彙報」データベース化を行い、どのような人物がどのような活動を行っていたかを把握するための資料を作成した。

(2) 同じく、『日本語』の「目次」のデータベース化を行い、当時の日本語教育が興味をもつ事項・研究方向、執筆者の専門性を把握するための資料を作成した。

(3) 日本語教育振興会の「運営実態の解明および再評価のための基礎資料」として理事会記録のデータベース化を行い、理事の構成（文部省・興亜院等）、討議内容等を把握するための資料を作成した。

#### 4. 研究成果

(1) 従来文部省が指導性を発揮し設置した組織と理解されてきた日本語教育振興会は、興亜院（後に大東亜省に改組）の強い要請により曲折を経て成立したことが判明した。

(2) 興亜院と日本語教育振興会は、設立経緯に関しては興亜院の指導性が見られ、また日本語教員養成科目構成などにおいても興亜院の要求が振興会に及んでいることが窺われる。

(3) 日本語教員派遣については、興亜院と振興会の間には、かなりの差異が感じられる。

興亜院は中国に 1000 人弱の「支那派遣教員」を派遣し、振興会も 1000 人に近い数の「日本語教師」を派遣する。

両者は派遣する地域を分掌しているし、同じ日本語教育を目的とする派遣でも職名が違っている。

(4) 日本語教育振興会の日本語教員養成の科目構成は第二次大戦中は興亜院と同じように「日本精神の錬成」に重点が置かれる。しかし、戦後の日本語教員養成は、言語学的内容・教授法に重点が置かれる。

しかも戦後の第 1 回目の日本語教員養成は、1945 年秋に行われている。

このことは、以下を意味させてくれよう。

- ① 終戦の数ヵ月後に日本語教員養成を再開させていることは、文部省・外務省が日本語教育への興味を失ったわけではなかったこと。
- ② 振興会の日本語教員養成の科目構成が第二次大戦中においては興亜院に近かったことは、興亜院の力関係における影響が強かったことの証明となるが、終戦の数ヵ月後に再開させる日本語教員養成に

おいては科目構成内容を変えるということとは、振興会側の望んでいた日本語教員養成科目構成内容は、戦中のそれとは異なっていたのではないかという想像をさせてくれる。

(5) 日本語教育振興会は、戦後、資産を（財）言語文化研究所に継承させ、日本語教員養成を継続しながら、米軍関係の日本語教育を担い、更にはキリスト教関係者に対する日本語教育を引き受ける等、日本語教育実施機関としての機能に集約していき、日本全体の日本語教育の中核的位置を薄めていく。

#### 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 25 件）

① 長谷川恒雄、「日本語教育史の中の「財団法人言語文化研究所・長沼直兄・日本語教師連盟」」、『日本語教育研究』、印刷中、2009、有

② 松永典子、「旧制福岡高校の留学生—「南方特別留学生」を中心に—」、『青春群像 さようなら九大六本松』（花書院）、91-105、2009、有

③ 前田均、「日本語教師が加害者になるとき」、『天理大学人権問題研究室紀要』第 12 号、1-13、2009、有

④ 河路由佳、「鈴木忍とタイ戦時下のバンコク日本語学校での仕事を中心に—」、『アジアにおける日本語教育—「外国語としての日本語」修士課程設立一周年セミナー論文集』、3-28、2009、有

⑤ 河路由佳、「1945・1946 年「日本語教育振興会」から「言語文化研究所」へ—附属東京日本語学校設立前史の「通説」再考—」、『財団法人言語文化研究所附属東京日本語学校 60 周年記念誌』、71-98、2009、有

⑥ 河路由佳、「創立者 長沼直兄年譜」、『財団法人言語文化研究所附属東京日本語学校 60 周年記念誌』、97-110、2009、有

⑦ 河路由佳、「長沼直兄らによる戦後早期の日本語教育のための調査研究—1945～1946「日本語教育振興会」から「言語文化研究所」へ（その 2）—」、『日本語教育研究』、第 53 号、1-43、2008、有

⑧ 前田均、「日本語教育の歴史、その光と陰 (14) 国語改革と日本語教育」、『グローバル天理』、第9巻第2号、計5頁、2008、無

⑨ 中村重穂、『興亜院派遣日本語教師の日本語教授法講義録に関する考察—資料：上野通久『日本語教学法講習会「小学日本語読本 巻四」教授法講義[ママ]草案』—』、北海道大学留学生センター紀要、第12号、1—25、2008、無

⑩ 河路由佳、「長沼直兄による敗戦直後の日本語教師養成講座—1945年度後半・「日本語教育振興会」から「言語文化研究所」へ—」、『日本語教育研究』、第52号、1—33、2007

⑪ 河路由佳、「立体的理解を可能にするオーラル資料と文字資料の併用—1942年度・1943年度のタイ国招致学生事業における在日タイ国留学生に関する調査研究の事例から—」、『日本オーラル・ヒストリー研究』、第3号、75—97、2007、有

⑫ 前田均、「日本語教育の歴史、その光と陰 (4) 『内地』在住朝鮮人への日本語教育」、『グローバル天理』、第8巻第4号、計7頁、2007、無

⑬ 前田均、「日本語教育の歴史、その光と陰 (5) 日本語基本語彙の選定」、『グローバル天理』、第8巻第5号、計6頁、2007、無

⑭ 前田均、「日本語教育の歴史、その光と陰 (6) 日本語教師の資質」、『グローバル天理』、第8巻第6号、計7頁、2007、無

⑮ 前田均、「日本語教育の歴史、その光と陰 (7) 軍事占領下の日本語教育」、『グローバル天理』、第8巻第7号、計5頁、2007、無

⑯ 前田均、「日本語教育の歴史、その光と陰 (8) 日本人用対訳会話書」、『グローバル天理』、第8巻第8号、計5頁、2007、無

⑰ 前田均、「日本語教育の歴史、その光と陰 (11) 日本統治下台湾の教育の虚実」、『グローバル天理』、第8巻第11号、計7頁、2007、無

⑱ 前田均、「日本語教育の歴史、その光と陰 (12) 日本語教科書の中の虚構とその弊害」、『グローバル天理』、第8巻第12号、計7頁、

2007、無

⑲ 河路由佳、「近代日本の国語教科書に描かれた「日本語普及」—国定国語読本に現れる「国語」「日本語」の用例から—」、『東京外国語大学論集』、第72号、224—241、2006、有

⑳ 中村重穂、「宣撫班本部編『日本語會話讀本』の文献学的考察・その2—南満洲教育会 編纂教科書との比較を通して—」、『北海道大学留学生センター紀要』、第10号、34—57、2006、無

㉑ 松永典子、「『総力戦』下の人間形成—「拓南塾」の人材養成を中心に—」、『比較社会文化：九州大学大学院比較社会文化学府紀要』、第13巻、19—32、2006、有

㉒ 前田均、「日本語教育の歴史、その光と陰 (1) 日本語教育史研究の意義」、『グローバル天理』、第8巻第1号、計9頁、2006、無

㉓ 前田均、「日本語教育の歴史、その光と陰 (2) 『直接法』イデオロギー」、『グローバル天理』、第8巻第2号、計9頁、2006、無

㉔ 前田均、「日本語教育の歴史、その光と陰 (3) 戦時下台湾の成人用日本語教科書」、『グローバル天理』、第8巻第3号、計7頁、2006、無

㉕ 前田均、「日本語教育の歴史、その光と陰 (4) 戦時下台湾の成人用日本語教科書」、『グローバル天理』、第8巻第3号、計7頁、2006、無

[図書] (計 1件)  
松永典子、花書院、『『総力戦』下の人材養成と日本語教育』、2007、

[学会発表] (計 3件)  
①松永典子、「大学院教育における日本語非母語話者教員養成—グローバル人材養成のための基礎研究—」、第7回日本語教育国際研究大会、2008

②中村重穂、「日中戦争期中国占領地に於ける日本軍兵士による日本語授業の再構成の

試み - 公文書と戦争文学から -」、日本語教育史研究会、2007.9

③前田均、「日本統治下台湾の教科書の中の台湾語」、台湾語言學一百周年國際學術研討會（台湾）、2007.9

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

長谷川 恒雄 (HASEGAWA TSUNEO)

財団法人 言語文化研究所・研究一部

・研究員

研究者番号：10051567

### (2) 研究分担者

### (3) 連携研究者

河路 由佳 (KAWAJI YUKA)

東京外国語大学・外国語学部・教授

研究者番号：00272641

中村 重穂 (NAKAMURA SHIGEHO)

北海道大学・留学生センター・准教授

研究者番号：70207877

前田 均 (MAEDA HITOSHI)

天理大学・国際文化学部・准教授

研究者番号：70165653

松永 典子 (MATSUNAGA NORIKO)

九州大学・比較社会文化研究科・准教授

研究者番号：80331114